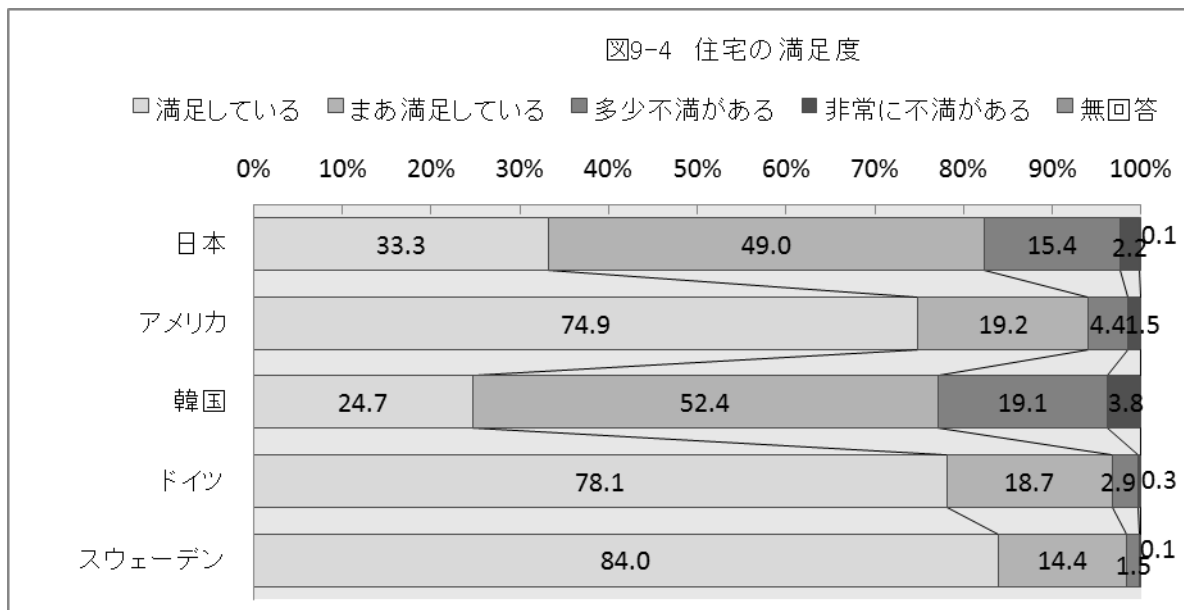


Ⅲ 住宅の満足度と問題点

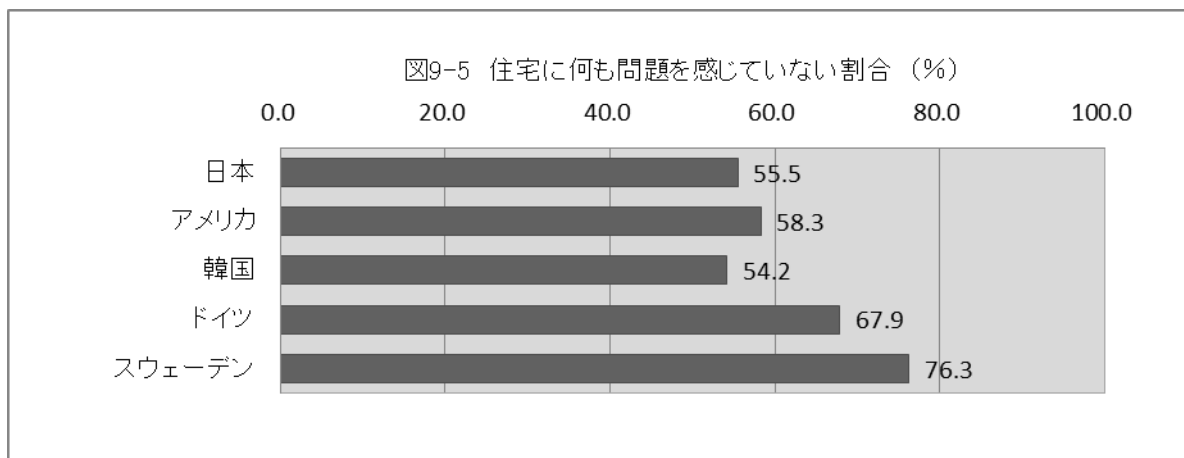
1 住宅の満足度 (Q36)

住宅に対して満足している割合が最も高いのはスウェーデンで84.0%、次いでドイツ78.1%、アメリカ74.9%である。これらの国とは対照的に、日本と韓国では満足している割合が低く、日本では33.3%、韓国では24.7%にしかすぎない。ただし、経年的な変化をみると、日本の満足している割合は、27.8%→31.0%→25.6%→34.9%→33.0%と（第3回調査（1990年）～第7回調査（2010年））と変化してきており、状況は改善されつつあるといえる。（図9-4）



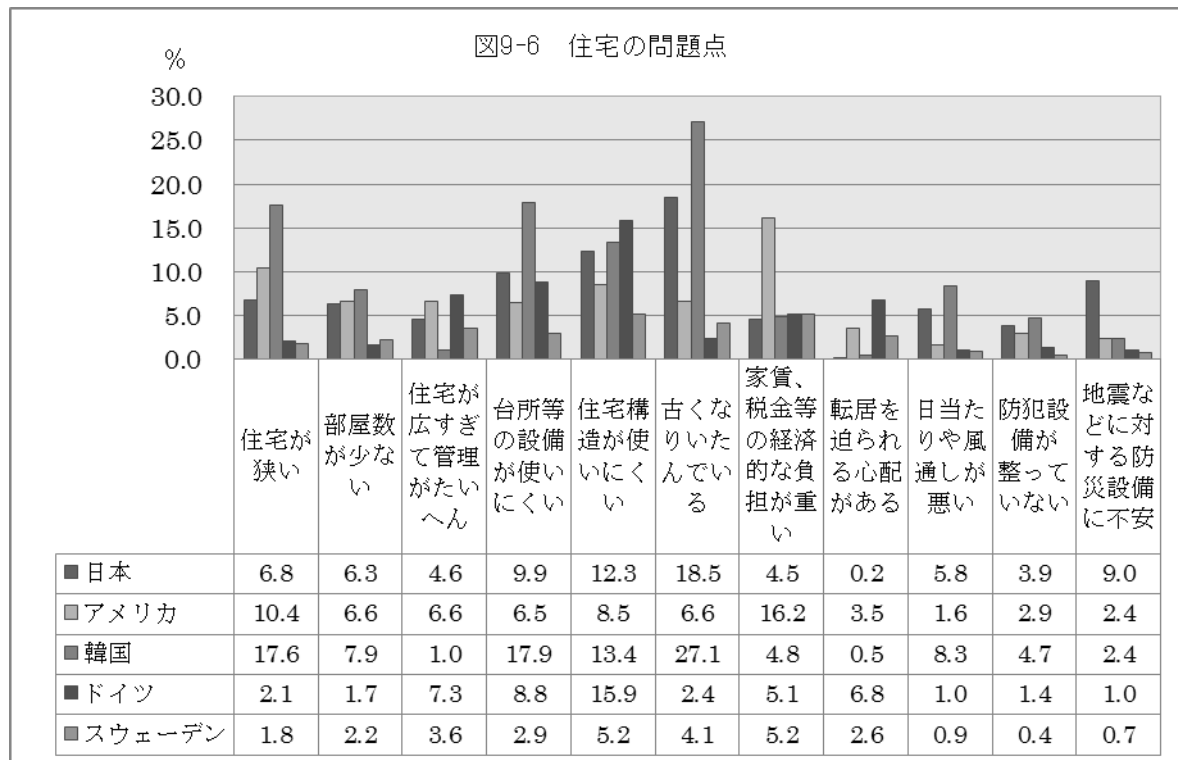
2 住宅の問題点 (Q35)

住宅に何も問題を感じていない値が最も高いのはスウェーデンで、76.3%がそう答えている。（図9-5）



次いでドイツ 67.9%、アメリカ 58.3%、日本 55.5%、韓国 54.2%である。相対的にアジアの日本、韓国の値が低く、前回調査の値と大きく変わっていない。

住宅に関してどのような問題を感じているのかを具体的にみると、日本の場合は住宅が古くなりいたんでいる 18.5%、段差や階段等の住宅構造が高齢者に使いにくい 12.3%、台所、便所、浴室等の設備が高齢者に使いにくい 9.9%の指摘が多い。また、地震などに対する防災設備については前回の値 11.0%に対して、今回調査でも 9.0%が問題ありと回答しており、他国に比べて突出して高い値である。(図 9-6)



韓国の場合には、住宅が古くなりいたんでいる 27.1%、台所、便所、浴室等の設備が高齢者に使いにくい 17.9%、段差や階段等の住宅構造が高齢者に使いにくい 13.4%の回答が目立つ。アメリカの場合は、家賃・税金等の経済的な負担 16.2%と突出して高く、前回調査と比べても 5 ポイント程度上昇している。今回調査はリーマンショック以降に実施されており、金融危機が高齢者にも大きな影響を与えたと推測される。ドイツは、住宅の構造が高齢者に使いにくいとの指摘が 15.9%あることが目立つが、それ以外の問題は少ないようである。スウェーデンは、問題点の指摘は極めて少なく、住宅にそれほど大きな問題がないと考えられる。